

三笠市の  
地域の特色を生かした  
全国に通じる教育を目指して



学校の歴史（昭和35年）

人口 56,196人

小学校11校・中学校6校

児童 10,382人

生徒 4,280人

学校の歴史（平成23年4月）

人口 10,355人

小学校2校・中学校2校

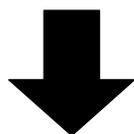
児童 304人・22学級

生徒 189人・10学級

誰もが住んでよかったと  
思えるまちづくりへ

（三笠市総合計画）

子どもたちが健やかに育つ環境づくり

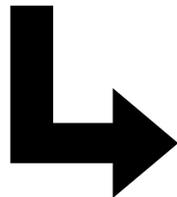


地域の特色を生かした  
教育施策の充実

# 平成17年度から 岡山萱野小中一貫教育の実施

義務教育9年間を見通して

- 確かな学びと豊かな心を育む「生きる力」の育成
- 個性を生かし、個々の能力に見合った教育の実現
- 中1ギャップの解消と、小から中への円滑な接続



学力の着実な定着を目指す

## 特色ある授業Ⅰ「国際科」

小学1年生から外国語活動を実施

文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、  
小学1～4年生まで年間35時間実施



(期待される効果)

- コミュニケーション能力の育成
- 中学校英語科への円滑な接続（学力向上）
- 外国文化への興味関心の向上

# J E T プログラムによる A L T の活用



歌や踊り、単語カードなどを使った  
楽しい英語として子どもたちを指導

## 特色ある授業Ⅱ 「地域科」

小学3年生から地域を学ぶ学習

総合的な学習の時間を活用し、小学3～中学  
2年生まで年間15時間実施



(期待される効果)

- 郷土みかさに誇りを持ち愛する心を育てる
- まちづくりへの関心を高める
- 地域の講師から仕事（キャリア）を学ぶ

## 実施内容 小学3年生

みかきの基幹産業である農業を学ぶ



## 実施内容 小学4年生

炭鉱の歴史からみかきの成り立ちを学ぶ



## 実施内容 小学5年生

アンモナイトや地層からみかきの自然を学ぶ



## 実施内容 小学6年生

市のイベント（お祭り）からみかきを学ぶ



## 実施内容 中学1年生

特産品からみかさを学ぶ



## 実施内容 中学2年生

みかさのまちづくりについて考える



地域科のまとめ～まちづくり提言～

## 平成23年度から 三笠小中一貫教育の実施

- 学校統合を機に小中一貫教育を実施
- 学校運営協議会の設置を検討（文科省研究指定）  
（新たな研究の実施）



市内すべての小中学校が  
小中一貫教育を実施

## コミュニティ・スクール （学校運営協議会）導入の目的

- 学校統合の影響による地域との希薄化の懸念
- 地域の学習素材や人材の活用を組織的に展開
- 子どもを育てる環境の整備・充実



理想的な学校づくりに貢献

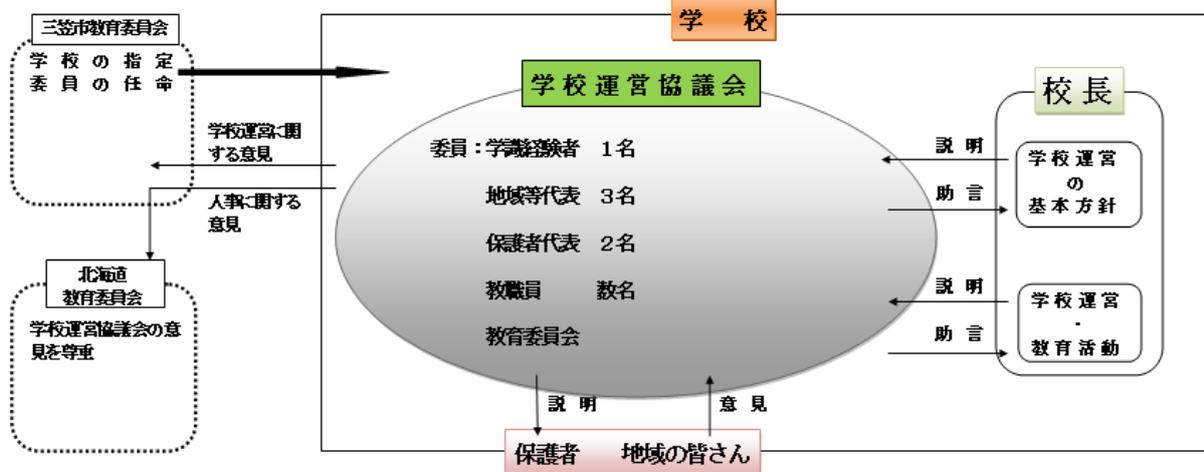
小中一貫コミュニティ  
スクールの推進

## 三笠市のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

今年度からの統合により、従来の地域に密着した学校運営のスタイル（型）が変換することが想定されます。これを補っていくための方策が「コミュニティ・スクール」である。三笠市の考える「コミュニティ・スクール」とは、教育活動がスムーズに展開されるよう地域住民が中心となり、教育活動に協力していく組織のことである。

【コミスクに期待すること】

- 地域住民で構成する学校の運営としての役割
- 地域に根ざした小中一貫教育の推進に資する組織・運営
- 情報発信の場（様々な情報を地域に向けて）
- 学校・地域・家庭をつなぐパイプ役



学校運営協議会の主な役割

- 「学校の教育活動のより一層の充実」をサポートします。
  - ☆サポート内容の企画・推進
  - ☆地域の学習素材の整備
  - ☆人材バンクの整備と派遣
  - ※小中一貫教育とのリンクを図る。

- 学校運営に関する意見を教育委員会又は学校長に述べられます。（仲介的役割）
  - ☆学校運営を円滑に進めるために必要な条件等に関する意見。（例）・施設の充実・学校予算の増減等

- 校長の作成する学校運営の基本方針に対して助言をします。
  - ☆校長と共に、保護者や地域住民等が責任をもって学校運営に参画するために行うもの。

## 具体的な研究内容

- コミュニティ・スクール、学校、教育委員会、保護者、地域住民との適切な役割分担の在り方の検討
- 保護者や地域住民等の意向を把握し、学校運営や教育活動に反映させる方策の検討
- 地域に根ざした小中一貫教育の推進に資するコミュニティスクールの組織・運営体制づくりの検討
- コミュニティスクールに文化団体、学校支援ボランティア、自治会、地域教育アドバイザー等から幅広く参加してもらうための方策の検討

## 具体的な研究内容

- コミュニティ・スクール制度の趣旨等の理解を深めるため、保護者や地域住民を対象とした制度説明会の開催

○9月26日

- ・小中一貫コミュニティスクール制度説明会  
講師：東京都三鷹市 貝ノ瀬滋 教育長

## 導入を目指す上での課題

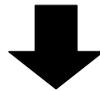
- 教職員、保護者・地域住民の共通理解の構築
- 学校運営協議会の組織体制及び権限等の整備
- 教職員配置の充実





## 課題に対する解決の見通し

- 制度説明会、保護者説明会等の開催
- 準備委員会での十分な議論・検討
- 教職員加配の配慮（国や道への要望）



地域・保護者・教職員が  
一体となった学校経営



## 期待される効果について

- 地域の活性化＝地域を守るための学校づくり
- 子どもたちの教育環境の充実
- 意識の変化（教職員・地域住民・保護者）
- 学校が地域コミュニティの形成の場に



地域が応援団と  
なる学校づくり

## 今後の展望について

- 小中一貫教育の推進に資する運営方針の検討
- 現在の地域との関わりを生かした事業内容の検討
- 情報の発信



## 現在の取組状況

- 6月30日  
三笠小中一貫コミュニティ・スクール設置準備委員会の立上げ  
(年間推進スケジュールの確認)
- 7月中旬  
第2回三笠小中一貫コミュニティ・スクール設置準備委員会